TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribuneしこく

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1572号 令和6年9月25日（水曜日）

≪毎月5・15・25日発行≫
発行所　㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通 0318279
徳島大正銀行県庁支店/口座番号・普通 5283742
四国銀行徳島営業部/口座番号・普通 5151924
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

美しく駆ける mima 美馬
活躍都市
住み続けたいまちをめざして
美馬市役所
〒777-8577 徳島県美馬市穴吹町穴吹字九反地5番地
公式LINE 始めました
友だち追加はこちら

県立ホールの県市合意問題。「個人として同意した」との遠藤市長発言を受けて、瀬尾副市長が「組織として合意した」と説明する県との溝は深まるばかり。

とりびゅーん・しこく

自民・山口衆院議員が十二選目指す徳島二区。首長らは揃って山口氏支援。重鎮の兼西つるぎ町長は「自民県連副会長として筋を通す」と山口氏支援の旗振り役。飯泉元知事シンパの松田上板町長も「自民党員ですから」と山口氏支援を示唆。

軋轢広がる「合意」問題

県立ホール「三十億円」

徳島市が自由に使えない

お粗末な「県市合意」だ。トップ会談で県立ホールの「藍場浜プラン」と「基金」で合意した後藤田知事と遠藤市長。笑顔で握手し「県市協調」をアピールした。ホール整備をスピードアップさせるための「政治的合意」だったが、市議会が「議会軽視だ」と反発。遠藤市長が「個人として同意した」と意味不明な弁明を繰り返すドタバタ騒動に発展している。基金についても「市が自由に使えるのか」と疑問噴出だ。掛け違えたボタンをリセットし、「ウィン-ウィン」のフェアな県市協調で徳島駅周辺の賑わいづくりをめざすべきだ。

藍場浜計画の合意をめぐる県と市の見解

R5.11.24	後藤田知事が藍場浜計画を打ち出す。
R6.9.14	後藤田知事と遠藤市長が会談。藍場浜計画や基金設置で合意。
R6.9.17	松本副市長が市議会に「市長が個人的に同意した」と説明。
R6.9.25	遠藤市長が市議会に「個人的に同意した」と説明。
R6.9.26	知事戦略公室の木野内統括監が県議会に「組織として合意した」と説明。

火に油注いだ遠藤市長『個人として同意した』

後藤田知事と遠藤市長が合意

批判呼ぶ「県市合意」、混乱招いた市長の「個人的同意」発言

後藤田知事と遠藤市長が合意した「県市合意」は、厳密に言えば、藍場浜ホール整備に向けた取組方針についての合意だった。方針に盛り込まれたのは次の四点セットだ。

①藍場浜ホール整備を県市協調で進める②「県都のまちづくり推進基金（仮称）」の設置③県立ホール現計画の県市協定の改定④アリーナなど県都のまちづくりを連携して進める。

県と徳島市はこの取組方針をそれぞれの議会に説明する予定だったが、メディアが一斉に報道。四点セットが既成事実化した。報道された「県市合意」は議会の反発を招いた。

市議会では与党会派からも「議会軽視だ」と批判の声が上がった。対応に窮した市当局は市長や副市長が「市長が個人的に合意した」とチンプンカンプン回答。火に油を注いだ。

議会対策の方便、市民を欺く「二枚舌」

「県市合意」を「市長が個人的に同意した。市は同意していない」と説明する徳島市だが、それはあくまで議会向けの方便。市民にとっては不誠実な虚偽説明。戯れ言だ。

トップ会談は九月十四日、グランヴィリオホテルで開かれた。後藤田知事と遠藤市長のほか、村上副知事、瀬尾副市長など県と徳島市の幹部職員もテーブルについている。

執行機関である徳島県と徳島市の組織間合意であるのは明白。県も当然「組織として合意した」との認識だ。「市長の個人的同意」との説明は、市民を欺くものだ。

議会に問い詰められ迷走する遠藤市長。事実に即するなら「市長としてホール整備の取組方針に合意した。議会には後できちんと説明する予定だった」と報告すべきだった。

もっとも取組方針に合意したということは、方針が実現を目指す四点セットに合意したも同じ。メディアが「藍場浜計画や基金設置、協定改定で合意した」と報じるのも当然だ。

市が自由に使えない「まちづくり基金」

四点セットに実質的に合意した県と徳島市。問題は基金だ。規模は約二十億円。当初想定された十五億円よりボリュームがアップしたが、設置されるのは徳島市ではなく県だ。

県に設置されるということは、徳島市が自由に使えない基金だということ。簡単に言えば、徳島市は預金通帳を持つだけ。金庫は県にあり、金庫の鍵や通帳の印鑑は県が持つ。

基金案浮上の背景は、徳島市への補償問題だ。県と徳島市は県立ホールの文化センター跡地計画で協定を締結。市有地の無償譲渡や既存施設の解体、インフラ整備などを取り決めた。

建設地が藍場浜公園に移れば、今までやったことが水の泡。「無償譲渡した市有地はどうなる」「先行投資した金はどうなる」という問題が浮上する。

それがいわゆる「補償」問題。市有地の資産評価は五億円。先行投資した金は十億八千万円。総額十五億八千万円の補償問題をどうするか。県が出した答が「基金」だった。

綻びが噴出する「基金補償」

県は十一月県議会で基金の条例案を提案予定だが、市議会からは「市が自由に使えない基金。補償でも何でもない」「使う時にいちいち県にお伺い立てるのか」と批判噴出だ。

市町村関係者からも疑問の声が上がる。「基金の原資は県民の金。なぜ徳島市限定なのか。県の基金なら、県全体のまちづくりに活用できるようにすべきだ。不公平だ」。

県議会からも異論が上がる。「県議会が基金の取り崩しや使途を認めなければ使えない基金。知事が代わればどうなるかわからない。徳島市はそのリスクを理解しているのか」。

疑問噴出の「基金補償」。トップ会談に臨んだ遠藤市長や瀬尾副市長は基金の問題点を理解して合意したのか。もしそうなら、市民への背任とも言える県への「従属合意」だ。

遠藤市長は一期目に阿波踊りの赤字問題で徳島新聞から三億円の寄付を受け、徳島市に阿波踊り振興基金を設置した。その実績が二期目の市政運営に生かされていない。

問われる徳島市のまちづくりビジョン

徳島市が県に従属する「基金補償」。今ならまだ間に合う。計画地変更に伴う補償なら、県主導の基金などやめて、キャッシュで一発勝負すべきだ。その方がシンプルだ。

手法はいろいろある。一つが協定を破棄するリセット案。無償譲渡した市有地をそのまま徳島市に返還。先行投資した関連費用は、県市が応分負担で精算すればいい。

市有地の買い取り案もある。協定を改定し、無償譲渡を有償譲渡にチェンジ。先行投資した経費は土地取得に要した経費として計上。市有地購入経費として市に支払えばいい。

市民が期待するのは徳島市の自主性だ。県への従属ではなく、少しは自分でものを考えるべきだ。賑わいづくりは徳島市の仕事。県都のまちづくりビジョンが問われている。

見〜つけた!! 街角美人 No.129

東京で開催された日台親善協会の交流イベントで出会った街角美人。名前は山崎結子さん。もらった名刺を見てびっくり。青森県外ヶ浜町の町長だった。

青森県初の女性首長として話題を呼んだお方。父親と祖父が元参院議員という政治家ファミリー。民間企業勤務を経て、平成二十九年町長選で初当選。現在二期目だ。四十三歳の独身だ。

外ヶ浜町は津軽半島北東部のまち。人口は約四千六百人。多くの文化資産で知られる。令和三年には「史跡大平山元遺跡一帯」がユネスコ世界文化遺産に登録された。

「歴史ロマンあふれるまちです。縄文ストーリー始まりの地へ是非一度足を運んでみてください」。山崎町長からのメッセージだ。

問われるセーフティな運用 財政調整的基金

トップは三好市 百七十九億円

▲自治体の貯金である財政調整的基金。県内トップは人口22,000人の三好市で、総額約179億円だ。

自治体が弾力的に使える「貯金」

県内自治体の財政調整基金と減債基金の残高（令和五年度末）は別表の通り。徳島県は両基金あわせて一、〇一一億円。市町村レベルでは三好市が一七九億円でトップだ。

財政調整基金と減債基金は、自治体の「貯金」だ。阿南市が市民に配布した給付金は、財政調整基金が財源だった。基金の取り崩しや使途には議会のチェックが入る。

問われる運用、徳島市は大半を金融機関に定期預金

自治体内に眠る「埋蔵金」とも言える財政調整基金。「財政調整基金」と「減債基金」の総称。

藤井市長が今年四月に再登場した徳島市。令和五年度末の財政調整基金残高は約九十八億円。そのうち、徳島市と徳島ＪＡみずほ銀行に各十億円、徳島ＪＡ徳島市、〇・〇三％、利息約一〇五万円。

令和五年八月末の徳島市の利息約一億六万円。令和五年度の徳島市の利息約三十億円、令和六年十一月末の徳島ＪＡ徳島市、〇・〇六五％、利息約二〇六万円。

令和五年六月二十六日の徳島市の利息一五六万円。令和六年十一月末の徳島ＪＡ徳島市、〇・〇三五％、利息約二〇六万円。

令和五年八月末の徳島市の利息約一億六万円。令和五年度の徳島市の利息約三十億円、令和六年十一月末の徳島ＪＡ徳島市、〇・〇三％、利息約一〇五万円。

令和五年六月二十六日の徳島市の利息一五六万円。令和六年十一月末の徳島ＪＡ徳島市、〇・〇六